

## 陰で支えてくれる水

聖園女学院中学校

一年 石尾 紗良

皆さんは、「水」と言われて何を思い浮かべるだろうか。私が真っ先に浮かんだのは、生活用水だ。でも、実は水は生活に欠かせないだけでなく、見えないところでも色々な形で関係しているのだ。私たちの快適な暮らしを陰で支えている水について、もっと多くの人に知ってもらい、考えてもらいたいと思っている。

まず、私が一日の中でいつ、どのようにして水を使っているのか考えてみた。朝、起きたらまず顔を洗う。麦茶を飲みながらご飯を食べて、歯を磨いて口をすすぐ。学校のお昼ご飯と水筒のお茶を飲み、トイレに行ったら水を流す。家に帰ったら、手洗いとうがいをし、シャワーで体を洗いお風呂に入る。これがもし、水が無くなったら、何もできなくなってしまう。

顔も洗えず水も飲めず、トイレは流せず、お風呂にも入れない。水分が補給できなければ尿も出なくなり、やがて死に至る。何をするにも水が必要だけれども、それは目に見えるものばかりではない。実は、物を作るにも水は欠かせないので。

例えば、私たちが着ているTシャツひとつだけでも、水は大量に使われているのだ。例を挙げると、Tシャツを一枚作るのに約二百五十グラムの綿花が必要とすると、その綿花を作るには、約二千九百リットルの水が必要だと言われている。これは一般的なお風呂十五日分になる。では、私たちはどれだけの服を持っているだろうか。そしてそれは、結果としてどれだけの水を使っていることになるのだろうか。想像するだけでも、とてつもない水の量だと分かるだろう。

しかも、これは服だけではない。私は牛肉が大好きだが、牛を育てるのに、トウモロコシなどの穀物が必要で、その穀物を作るのにも水が必要だ。つまり、牛肉一キログラムを作るのに、水が、約二万リットル必要になるのだ。

このように、私たちの生活と切っても切れない水だが、

世界中どこにいても同じように水が、使えるわけではない。世界の人口の約四十パーセントになる三十六億人が水不足に悩まされていて、水を巡って紛争が起きた地域もある。しかも、将来的には人口の増加や、気候変動などの影響で、さらに、水不足が深刻化する可能性も、指摘されているという。

では、私たちに何ができるのだろうか。毎日のシャワーや歯磨きの際に使う水を最小限にするなど、まずはできることから始めるのが良いだろう。そして、目に見える水の使用量を減らすことに加えて、服や牛肉などを作るのに大量の水が使われていることを忘れずに、常に水と社会の関わりを意識して生活することが大切なのではないだろうか。今、着ている服を大切にしたり、おやみやたらに使い捨てずリサイクルやリユースに取り組みすることも、「水」の使用量を減らすことにつながるのだ。

これから視野を広く持ち、自分に行えることを行い、大切な水を今後も長く使い続けていけるように考えていきたい。